

(様式 1)

「リーディングスキルテストを活用した論理的思考力の育成推進校」実績報告書(2 年次)

1 学校名等

学 校 名	向日市立西ノ岡中学校				校長名	密谷 由紀
研究教科・領域等	全教科					
研 究 主 題	生徒の良さを引き出す・集団の良さを活かす学校づくり ～読解力を高める授業と学級集団の向上を目指した学級経営の在り方～					
研 究 の 目 的	リーディングスキルテストの受検結果により、生徒 1 人 1 人の読解力の 実態を把握し、各教科での授業改善に生かしていく。					
学 年	1 年	2 年	3 年	特別支援	合 計	教職員数 ※校長・教頭を含む
学 級 数	4	3	4	3	14	30
生 徒 数	122	103	124	20	369	

2 研究校の概要

(1) 生徒の実態・学力状況

【令和元年度教研式学力検査 CRT (中2 4月実施)】

国語科では、全体的に大きく落ち込んだ領域はないものの、「説明的な文章を読むこと」については、全国得点率とほぼ同程度であった。特に「～なのはなぜか、理由として適切なものを選びなさい。」「～とはどういうことか、説明として適切なものを選びなさい」という叙述に即した読み取りは全国得点率よりも低く、課題が見られる。

【令和元年度京都府学力診断テスト (中2 10月実施)】

数学科では、多くの問題で京都府の平均正答率を上回っている。下記の3問については、問題文や資料の読み取りなど、特にリーディングスキルが必要な問題であるが、京都府の平均正答率を下回っており、課題があると言える。

- ・「具体的な事象の中に数量関係を見だし、式に表すこと」
- ・「図形の移動のようす」
- ・「度数分布表やヒストグラムの具体的な場面での活用」

(2) 研究体制

研究主任・研究推進部を中心に乙訓教育局、向日市教育委員会、有識者等に指導・助言をいただく。また、校内で授業改善チームと学級経営チームを編成し、研究をすすめていく。授業改善チームについては、RST の結果をもとに、すべての教科での読解力の向上を目指し、学級経営チームについては、集団の良さを生かす学級経営の在り方について、研究・実践をすすめていく。

3 主な研究活動

令和元年度	4月	職員会議	研究主題と今年度計画の確認・共有
		校内研修	教員のリーディングスキルテスト（RST）受検
	5月	打ち合わせ	リーディングスキル（RS）について共有
		教科部長会	打ち合わせ内容を教職員全員で共有
		職員会議	学校訪問の指導案の様式説明（RSの視点を示した様式）
	6月	RSTの実施	2年生のRST受検
		RSTの結果返却	RSTの結果を教職員で共有
	7月	学校訪問	指導主事による授業参観
	8月	RS夏季校内研修会	RSについての説明・結果分析 講師：教育のための科学研究所 目黒朋子 上席研究員
	9月	職員会議	RS夏季校内研修会の内容を教職員全員で共有
		教科部会	9月職員会議の内容を受けて、RSの視点から教材研究
	11月	校内授業研究会	各教科部会がRS改善項目に沿った研究授業を実施 辻本指導主事より指導・助言
	12月	教科部会	3学期に向けて、各教科部会で検討 公開授業に向けて指導案・実践発表の内容検討
令和2年度	1月	公開授業	公開授業及び事後研究会 樋口指導主事より指導・助言
	2月	研究のまとめ	今年度総括の確認・共有
	4月	職員会議	研究主題と今年度計画の確認・共有
		校内研修	教員のRST受検
		年間指導計画改善	各教科の年間指導計画にRSの視点を明記
	8月	RSTの実施	3年生RST受検
	9月	校内研修	令和元年度総括と令和2年度1学期実践の振り返り
	10月	授業改善の取組	福知指導主事による授業参観、指導・助言
	11月	授業改善の取組	福知指導主事による授業参観、指導・助言
		校内研修	RSTについての説明・結果分析 講師：京都府教育庁指導部学校教育課 福知泰輔 指導主事
		教科部会	公開授業に向けての指導案検討（グループ別）
	1月	校内研修	公開授業に向けての事前研究（グループ別）
		公開授業	公開授業及び事後研究会（グループ別）
	3月	公開授業事後研究	福知指導主事より指導・助言

4 今年度の研究の成果と検証

（1）生徒

- ① 令和元年度と令和2年度のRST結果を比較すると、全項目で偏差値が上昇した。

これは、毎日の授業改善、10分間の朝読書や「ビブリオバトル」、1年次から継続して

いる週末課題（新聞記事の要約）等の取組の成果であると考えている。

② 生徒の「正しく読むこと」に対する意識に変容が見られた。資料2

これは、授業や日常生活において、全教職員が生徒に最後まで正しく話させる指導を行ったり、自分の考えの根拠を問い返したりすることを繰り返した成果であると考えている。

(2) 教職員

① 各教科で関連の深いRSの視点を確認し、指導に生かすことができた。資料3

これは、教員が研究授業や研修において、年間指導計画にRSのそれぞれの視点（参考RS①～RS⑥）を明記することにより、生徒の「読み」の実態を意識した丁寧な指導につながったと考えている。例えば、授業や教科書の記述のなかで、生徒が読み誤りやすいところ、つまづきやすいところを授業の中で共有・確認したり、理解を深めるために図式化して提示したりするなど、より具体的な授業改善に取り組むことができた。

② 担当教科の枠を超えたグループ設定により、教材を多面的に捉えることができた。

公開授業に向けて、事前研究から授業参観、事後研究まで、授業者以外は公開する教科以外の教員で構成したグループで研究を進めた。また、事後研究の視点が明確になるよう、参観の視点を焦点化して提示した。教科の枠を外したグループ設定は、多様な生徒の視点や他教科の視点から授業展開を検討することにもつながり、どの教員も同じように教材に向き合うことができ、研究を進める上で、効果的であったと考えている。

資料2 3年生国語科 期末テスト後の感想

2学期末までの授業・テストの感想	2学期末までの授業・テストの感想
1学期の期末から2学期の期末まで「読む」と「理解・説明」が上手になりました。その結果を見て、自分は「書く」と「考える」ということが分かってきました。何を問われているのか、何を答ければいいのかがよく分かってきました。問題を解いていくことが楽しくなりました。授業では、暗唱や5分間、1分間、10秒間など、いろいろな工夫がされていて、とても勉強になりました。また、先生も優しく、わからないことを丁寧に教えてくれました。テストでは、最後まで集中して取り組むことができました。結果は、自分にとって良い結果でした。これからも、勉強を頑張りたいと思います。	テストでは、一・二年の時と比較して、問題や文章の読み間違いが減りました。ここが1番変わったなと思いました。最後までじっくり問題を読んだり、何を問われているのかなどと理解して、正しい答え方で答えられたことが増えたと思います。自分の苦手な記述問題でも、足を引いて、張って、たけと、空らんにはできないけれど、難しくありません。文章を上手にまとめることができるようになりました。問題を解こうという意識が高くなりました。授業では、自分が重要だと思ったことを聞きたいことがよく出てくるようになったと感じました。

資料3 年間指導計画【数学】（令和2年4月作成）

単元及び単元目標	中単元	小単元	時数	目標・評価規準
4 変化と対応 具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、比例、反比例の関係についての理解を深めるとともに、関数関係を見いだし表現し考察する能力を培う。 ア 関数関係の意味を理解すること イ 比例、反比例の意味を理解すること ウ 座標の意味を理解すること エ 比例、反比例を表、式、グラフなどで表し、それらの特徴を理解すること オ 比例、反比例を用いて具体的な事象をとらえ説明すること	1 関数	章のとびら	1	・単元の学習内容に関心を持とうとする。
		関数 RS⑤⑥	3	・関数関係を、表やグラフなどで表すことができる。 ・関数関係の意味と変数と変域の意味を理解している。
	2 比例	比例の式 RS④	2	・具体的な事象の中にある2つの数量の関係を、変化や対応の様子に着目して調べ、比例の関係としてとらえられる2つの数量を見出すことができる。 ・比例の関係を式で表すことができる。
		座標 RS⑤⑥	1	・平面上の点を座標を用いて表したり、座標を基にして平面上に点をとったりすることができる。 ・座標の意味を理解している。
		比例のグラフ RS④⑤	3	・比例の関係をグラフに表すことができる。

参考 RS①：係り受け解析

RS②：照応解決

RS③：同義文判定

RS④：推論

RS⑤：イメージ同定

RS⑥：具体例同定（辞書・数理）

5 今年度の課題

- ・RSTの結果から、生徒の「テキストを理解する」「テキストを利用する」という読解力の向上が見られたが、「テキストを評価する」「テキストを熟考する」という論理的思考力へのさらなる高まりについては取組の途中であり、引き続き意識して指導していく必要がある。
- ・担当教科の枠を超えたグループ設定、参観の視点を共有するための事前研究、視点を絞った授業参観、事後研究は効果的であったが、事後研究で共有した意見を全員で検討したり他教科での活用について深めたりするには至らなかった。今後は、他教科や日常の授業実践へ広げていく必要がある。

6 事業終了後の研究構想

- ・生徒が、変化の激しいこれからの時代を生き抜くためには、「テキストを理解する」「テキストを利用する」という「正しく」読む力だけでなく、「テキストを評価する」「テキストを熟考する」という論理的思考力を身に付ける必要がある。そのため、どの授業においても、「論理的に」読む力を身に付けられるよう、自分の意見を持たせることと同時に、「なぜそう思うのか」「自分はどのように考えているのか」「ほかの視点で考えるとどうか」等についても問い返す指導を繰り返していきたい。
- ・教科の枠を外したグループ設定により、多様な生徒の視点や他教科の視点から授業展開を検討することができた。このことは、どの教員も同じように教材に向き合い、研究テーマを深める上で効果的であったと考えている。今後も、全員で取り組めるよう、研究体制や授業研究の進め方について、この方法を踏まえて実践していきたい。

令和元年 11 月 校内授業研究会



令和 2 年 1 月 公開授業

